

## CONTENTS

第 22 回研究大会のご案内-----	(1)	会費納入と領収書発行についてのお願い-----	(3)
新規入会員(2016年10月~2017年3月)--	(3)	会告:会員資格について-----	(3)
入会のご案内-----	(3)	機関誌『東アジア近代史』個人論文募集のご案内(4)	

## 第22回研究大会のご案内

今年度の研究大会は、2017年6月17日(土)・18日(日)の両日、駒澤大学を会場として開催されます。

17日は、賀申杰氏(東京大学大学院生)、曾寶滿氏(東京大学大学院生)、鈴木哲造氏(中京大学)、島田大輔氏(立命館大学)、譚謎氏(九州大学大学院生)の6氏による自由論題報告をおこないます。午後からは、歴史資料セッション「地の記憶—石に刻まれた歴史」を開催します。打越孝明氏(明治神宮国際神道文化研究所)、本康宏史氏(金沢星稷大学)、東山京子氏(中京大学)の3氏のご報告をいただき、総合討論を実施いたします。また、セッション終了後には、総会及び懇親会も予定されております。

18日は、「第一次世界大戦下の東アジアと世界」と題した大会シンポジウムを開催いたします。まず、斎藤聖二氏(茨城キリスト教大学)から問題提起をいただいた後、午前中に久保田裕次氏(京都大学)、川島真氏(東京大学)、古泉達矢氏(金沢大学)からのご報告をいただきます。昼食休憩を挟んで、午後からは大井知範氏(明治大学)、中谷直司氏(三重大学)、麻田雅文氏(岩手大学)からご報告をいただいた後、千葉功氏(学習院大学)からコメントをいただきます。その後斎藤聖二氏の司会の下、全体討論をおこないます。

以下に歴史資料セッションと大会シンポジウムの開催趣意文を掲載いたします。会員の皆様方には、ふるってご参加いただきますようお願いいたします。

なお、研究大会に関する詳細は学会ホームページをご参照ください。

### 歴史資料セッション趣旨文 「地の記憶 —石に刻まれた歴史—」

歴史学研究は、公文書や私文書などを素材に進められるほか、今日ではオーラル・ヒストリー、映像や写真、絵画、音声、発掘資料など多くの歴史資料を駆使し、史料批判を積み重ねて、歴史的真相へのアプローチを試みている。こうした歴史資料の中で、洋の東西を問わず古くて新しい素材の一つに記念碑がある。

「石碑」に代表される記念碑は、ある目的をもって建立されており、それ故に公園や境

内、広場など人々の視野に入る場所に設置されている。形状は多様であるが、典型は上部に碑銘を篆字で彫った篆額があり、その下に本文となる碑文を配している。近年、過去に発生した災害の記念碑を用いて、文書としては詳細が伝えられていない災害の実態に迫ろうとする研究が現れるなど、記念碑をめぐる新たな動きも出てきている。このような記念碑が建立地の歴史の一部を可視的に多くの人々に伝える手段として用いられている一方で、公衆の目に触れているにも関わらず、時代の変化、特に政治的支配の変転により記念物の建立目的が記憶から薄れ、単なる「遺物」として放置されたり、当初の目的とは違う意味で人々に認識される例も少なくない。

こうした現状を踏まえ、今年度の歴史セッションでは記念碑の建立目的とその伝承、現状、記念碑の持つ歴史学からみた意味、保存についてシンポジウムを行うこととした。報告は、打越孝明氏(明治神宮国際神道文化研究所)より明治天皇による巡幸の記念碑について岩手県を事例に「明治天皇の記念碑の現状と課題」、本康宏史氏(金沢星稜大学)より石川県金沢市の兼六園に建立されている記念碑を例に「明治記念碑の歴史的立場について」(仮題)、東山京子氏(中京大学)より旧植民地において建立された記念碑を例に「台湾における地の歴史と記念碑」の以上3本である。それぞれの報告から記念碑のみならず、歴史資料とは何か、どのように理解すべきかを考える問題提起としたい。

## **大会シンポジウム 「第一次世界大戦下の東アジアと世界」**

本学会は2014年6月の研究大会において、大戦勃発100年を機に、第一次世界大戦下における東アジアに関するシンポジウムを開催した。そこでは大戦勃発期の動向を見ることに主眼を置いた結果、5本の報告テーマは21か条要求を中心とするものになった。続いて2016年7月の研究大会では、3本の報告によるミニシンポジウムをおこない、第一次世界大戦にかかわるテーマを継続して取り上げた。これらの論考の一部は、本学会誌『東アジア近代史』第18号(2015年3月)、第21号(2017年6月)に掲載されている。

第一次世界大戦の重要な特色の一つに戦争の長期化があるが、東アジアもまたその4年余におよぶ時間の中で、大戦の変動を内的問題へと組み込んで行き、東アジア自身の歴史的な転換点を形成することになる。今回の3回目のシンポジウムは、おもに大戦の展開期から終焉期に向けた時期を取り扱うことで、東アジアの側が大戦環境にどのように対処して行ったのかを見ようとするものである。この期間に、総力戦・新外交・ロシア革命・民族主義など、第一次世界大戦状況ともいえる姿が鮮明に現れ、歴史的イベントとしての実態が明確になってくる。これまでのシンポジウムと同様に、今回も東アジア内部の動向を見ると同時に、欧米からの視点を絡めることで、より大きな視野のもとで変化過程を見て行きたい。地球規模の影響を持つ事件に関して、複数主体の交錯する場として東アジアを見るというアプローチは、変化の構造を把握するうえで不可欠なものと考えている。まずは、日中両国の大戦期の動き、ならびに関係性の構築に向けた諸問題を捉え、その後にイギリス・ドイツ・アメリカ・ロシアと東アジアとの相互関係に関する報告をしていただく。

本学会の一連のシンポジウムにおいて、21か条要求からシベリア出兵までの14本の緻密で斬新な報告がなされることになる。東アジアの歴史的転換点である第一次世界大戦期の

全体像を描き出すために、これらが大いに寄与するものとなり、さらに研究が積み重ねられていくことを願っている。

大会シンポジウム実行委員会

---

---

## 新規入会員（2016年10月～2017年3月）

下記の会員申請を理事会で承認しました（順不同、敬称略）。

曾寶滿（東京大学大学院人文社会系研究科日本研究専攻博士課程）、賀申杰（東京大学大学院人文社会系研究科日本史学博士課程）、李凱航（同志社大学グローバルスターデューズ研究科現代アジアクラスター博士後期課程）、醍醐龍馬（大阪大学大学院法学研究科博士後期課程）

---

---

## 入会のご案内

本会に入会を希望される方は、東アジア近代史学会のホームページの入会申し込みフォームに所定の事項をご記入の上、事務局までお送りください。年会費は5000円（大学院生・留学生は3000円）です。下記の口座にお振り込みください。会員の方で、会費未納の方は、機関誌刊行や会の運営上支障を来しますので、すみやかにご納入をお願い致します。

郵便振替口座 口座番号 00180-6-580867 口座名 東アジア近代史学会

ゆうちょ銀行：金融機関コード9900 店番号019 店名019店

預金種目：当座 口座番号：0580867 受取人名 ヒガシアジアキンダイシガツカイ

※所属大学の事務室を通してふりこまれる方は、個人名が不明の場合がありますので、お名前をメールでお伝えいただければ幸いです。

---

---

## 会費納入と領収書発行についてお願い

会員の方で、会費未納の方は、機関誌刊行や会の運営上支障を来しますので、すみやかにご納入をお願い致します。会費を大学事務を通して納入（国立大学などでの公費支払）される場合に、納入者が不明な場合が生じておりますので、ご面倒ですが納入の際にご一報ください。本会では、事務手続きの簡略化と経費節減のため、会費が振り込まれましたゆうちょ銀行（郵便局）、その他金融機関で発行する受領証をもって本会の領収書とさせていただきます。

---

---

## 会告：会員資格について

4月の常任理事会において、3月末日をもって会費3年度分未納者の退会承認を行いました。

## 機関誌『東アジア近代史』個人論文募集のご案内

当学会機関誌『東アジア近代史』第22号（2018年6月刊行予定）に掲載する個人論文を募集します。下記の投稿規程をご参照いただき、ふるってご投稿ください。なお、投稿期限は2017年10月末日、投稿先および問い合わせ先は東アジア近代史学会事務局（奥付参照）となっております。

『東アジア近代史』投稿規程（2015年6月制定）

- 1 会誌『東アジア近代史』に掲載できるのは、本学会員に限ります（但し依頼原稿はその限りにありません）。投稿論文の原稿は日本語による筆者オリジナルの書き下ろしのものとします。
  - 2 原稿の分量は、以下の通りです。（図・表・注を含む。）  
論文…20,000字以内      研究ノート…12,000字以内  
史料紹介…12,000字以内      書評…4,000字以内
  - 3 原稿は完全成稿とします。原稿はA4サイズ1枚につき縦書き、40字×30行で入力してください。なお、手書き原稿での投稿はご遠慮ください。
  - 4 原稿は電子データとプリントアウトした原稿1部をご送付ください。電子データはテキスト形式、ワード、一太郎の何れも可です。必要に応じてエクセルの表も使用可です。
  - 5 字体は、原則として新字体とします。特別な場合を除き、史料引用にある合字、変体仮名、異体字は、カナ、現在通用している字体に戻して引用してください。
  - 6 年号は西暦（漢数字）を原則とします。元号を用いる場合は括弧（ ）で西暦も表示して下さい。  
〔例 一九四五年・一九四五（昭和二〇）年・昭和二〇（一九四五）年〕
  - 7 注は、本文末尾に一括して掲げてください。
  - 8 注番号は、本文該当箇所の右脇に（1）、（2）、…のように付します。末尾の注も（1）、（2）、…で記述してください。もし不可能な場合は、word等の文末註機能を使用してもかまいません。
  - 9 写真図版（モノクロ）の掲載は可能です。
  - 10 原稿は本文と図版、表と分けて提出してください。本文原稿に赤字で図版、表などの掲載箇所を指示してください。ただし、掲載は編集の都合で前後する場合があります。
  - 11 校正は、原則として2回です。
  - 12 論文執筆者には、掲載号を3部、書評執筆者には2部、寄贈します。
  - 13 論文の抜刷が必要な場合は、初校グラ送付時、指示してください。なお、実費を御負担いただきます。
  - 14 投稿原稿の提出期限は、毎年度10月末日とし、投稿原稿の審査結果は、毎年度の2月末日までに通知します。
  - 15 掲載原稿の転載は、原則として1年間のご遠慮下さい。また転載にあたっては必ず本学会の許可を得て下さい。
  - 16 他誌との二重投稿はご遠慮ください。
  - 17 原稿の送付先は本学会事務局とします。原稿投稿の際に、氏名・住所・メールアドレスを記載した連絡用紙（洋式自由）も同封してください。電子データは下記学会事務局のメールアドレスに送信してください。
- 附則 本規程は2017年6月刊行の『東アジア近代史』21号から適用するものとする。

〔編集後記〕

今号は、6月に開催されます研究大会のご案内が中心となっております。細目は同封の案内状をご覧ください。会場となります駒澤大学へのアクセスは、駒澤大学Webサイト内トップページ上部の「交通アクセス」の中に記載されていますので、ご参照ください（<https://www.komazawa-u.ac.jp/access/>）。例年以上に内容豊富な研究大会となるべく準備を進めておりますので、多くの皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

「東アジア近代史学会会報」第42号 2017年4月30日

発行 東アジア近代史学会 会長 檜山 幸夫

編集 東アジア近代史学会ニューズレター編集委員会

東アジア近代史学会事務局 事務局長 櫻井良樹

〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1 麗澤大学 櫻井研究室内 TEL 090-9315-8574

E-mail アドレス modern\_east\_asia\_jm@hotmail.co.jp URL <http://www.jameah.gr.jp/>